

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2779300348
法人名	医療法人 六三会
事業所名	グループホーム さやまの里
訪問調査日	平成 20 年 9 月 20 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 22 日
評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2779300348
法人名	医療法人 六三会
事業所名	グループホーム さやまの里
所在地	大阪府大阪狭山市岩室二丁目185番11号 (電話) 072-367-0294

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地			
訪問調査日	平成20年9月20日	評価確定日	平成20年10月22日

## 【情報提供票より】(20年8月13日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 2 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	11 人	常勤 7 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 8.3 人	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4 階建ての	階 ~	2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	16,230 円
敷 金	有( 円) 無○		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無○	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,400 円		

## (4) 利用者の概要(8月13日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名
要介護3	4 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 75 歳	最高 90 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	大阪さやま病院、大阪さやま病院歯科
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大阪狭山市の静かな丘陵地にあり、併設の老人保険施設・デイサービスセンター・提携病院の大阪さやま病院と隣接している。医療機関との連携が密で安心できる環境にある。1ユニットならではの行き届いたサービスが提供されている。職員の異動も少なく、落ち着いた温かい雰囲気、食事のメニュー作りから、用意・片付け・掃除までを職員と利用者が共に行い一つの家庭として理念に沿った運営がされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、地域密着型サービスとしての理念が改善点であった。その事はよく検討され、「グループホームさやまの里は地域に根ざした『家庭』として馴染みの関係を築いてまいります」と定めた。地域との関わりにも努め、いい関係を築いている。今後、より交流を深め、地域住民の協力が更に得られるよう期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、全職員で話し合い取り組んでいる。外部評価の結果は、職員会議・運営推進会議で報告検討してサービスの向上への具体案の検討や実践に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は二ヵ月に1回開かれ、包括支援センター職員、民生委員、介護相談員、家族、管理者が揃う。ほぼ全家族が出席し意見、要望、質疑が活発に述べられ、サービスの改善と向上につながっている。利用者の日常生活のビデオも映され、家族とのよいコミュニケーションを築く努力がされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議や家族等の来訪時には、活発に不安・苦情等の意見は述べられている。従って、解決できる事は直ぐに改善している。その上、苦情処理台帳もつくり運営へ反映している。また外部評価時の家族等へのアンケートも参考にして更なる改善に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事(狭山池まつり、はばたけフェスタ他)、近隣の神社、お寺の祭礼に参加している。また併設施設との協力で2ヵ月毎に「さやまの里教室」(認知症サポーター養成、車椅子移譲について等の介護教室)を開催、また年一回“さやまの里祭”を開いて、地域住民と共に楽しみながら地域の中で過ごす取り組みがされている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今まで掲げてきた「笑顔」「真心」「気配り」の法人としての理念に「グループホームさやまの里は、地域に根ざした『家庭』として馴染みの関係を築いてまいります」を職員全員で考え、事業所独自の理念として付け加えられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内の入り口や廊下など、よく目に付くところに、理念を掲示、毎月の職員会議でも話し合いするなど、共有の徹底を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(狭山池まつり、はばたきフェスタなど)に利用者と共に出向いて行ったり、地域の人々を二ヶ月に一度開催している「さやまの里教室」(介護教室)や「さやまの里まつり」に招いたりして、双方向で積極的な交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、評価の意義とねらいを管理者や職員で話し合い、評価を活かして拘束等具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二ヶ月に一度、事業所職員・ほぼ全員の利用者家族・地域包括支援センター職員・地区民生員・介護相談員で話易い雰囲気のもと行われている。そこで出された意見は、スタッフ会議で話し合い、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや市の介護保健課へは折に触れ訪問し、情報交換したり意見を貰ったりしてサービスの向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	運営推進会議にほぼ全員の家族等が来られるので、その時に職員の異動も含めて報告している。その他、毎月発行している通信紙「すまいる」やビデオ等でも利用者の暮らしぶりを紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二ヶ月に一度開催される運営推進会議で出された家族等の苦情や意見は、スタッフ会議に回り運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所開設以来、7年間で離職者はほとんど無いので馴染みの関係が保たれている。また、離職者が出たときも替わりの新人が利用者や馴染むまで引き継ぐようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤・非常勤を問わず内部研修や外部研修に参加する機会を設け、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪狭山市、河内長野市など近隣のグループホームと二ヶ月に一度、訪問し合い相互研修、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなりサービスを開始するのではなく、本人やご家族等に納得のいくまで説明をした上で、職員が自宅へお伺いしたり、見学に来て頂いたりして場の雰囲気に徐々に馴染んで頂けるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者を介護される一方の立場に置かず、俳句や洋裁、園芸など得意の分野で力を発揮してもらい本人から学んだり支え合う関係づくりをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、一人ひとりの暮らし方の希望、馴染みの場所など可能な限り本人の意向に添った生活を支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞いたり、 <b>運営推進会議メンバー</b> など必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一ヶ月に一度モニタリングを行い、状態の変化が見られたときは、介護計画書の <b>設定</b> 期間以前であっても本人、家族等、その他必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族等の状況に応じて、本人のかかりつけ医や馴染みの店・場所への送迎をするなど、柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等の納得の得られたかかりつけ医の医療が受けられるよう支援している。受診や通院の送迎は基本的には家族等が行うが、状況に応じて事業所が柔軟に対応し医療機関とも関係を密にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が、動けない・食べられない、で医療行為が常時必要となるまでは支援していくという基本方針のもと、本人や家族等、担当医と十分な話し合い対応がされている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さりげなく食事の介助をしたり、目立たず穏やかな言葉掛けをするなどの対応の徹底が図られている。また、個人記録はスタッフルームの戸棚に施錠の上、保管されプライバシーの保護が徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や馴染みの場所への散歩にでかけるなど、一人ひとりの思いや希望を大切にされた個別性のある支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者と職員が一緒になって作っている。食材の購入も共にし、時にはメニューが食材購入時に変更することもある。調理、盛りつけ、後片付けなどは利用者一人ひとりの力を活かしながら職員と共に行っている。食事職員と共にし、和やかで家庭的な雰囲気が見られる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は週に三回沸かしているが、その中で入浴時間については利用者の希望に合わせている。その他、希望者によっては足湯なども提供するなどして、入浴を楽しめるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の暮らしの中で、一人ひとりに合った楽しみ事(書道、俳句作り、園芸、料理、掃除など)を生活歴や会話の中から見つけ出し、役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望や状況に応じて、事業所の周辺だけでなく、本人の馴染みの場所へ出掛けるようにしている。外出には「お出かけノート」をつくり特定の利用者に偏らないように配慮もされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人ひとりの状況を把握し、利用者が外出しそうな様子の時は職員がさりげなくついて行くなどして、安全面に配慮しつつ日中玄関や居室に鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回の消防署指導による災害訓練の他に、毎月一回、事業所独自で避難訓練を利用者と共に行っている。夜間を想定した訓練も実施され、隣接している併設施設職員との協力体制も出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分摂取量、バイタルチェックなどを毎日記録し、一日を通じて栄養バランスが保てるよう、職員全員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	もと病院として使用されていた建物をグループホームとして再利用しているもので、リビング・ダイニングキッチンともに非常に広くゆったりしている。鉄筋の建物だが、窓には障子をはめられ差し込む日差しを和らげている。部屋の飾り付けは利用者と共に、季節感溢れる落ち着いた雰囲気になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族等と相談しながら、使い慣れた馴染みのダンスや日用品、家族等の写真などが持ち込まれ本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		